

今月のテーマ 変化する長崎

田上市長の 心と手

～自らの思いを皆さんに語るコラム～

平成25年度がスタートしました。

長崎市の10年計画である「第四次総合計画」は3年目に入りました。あと残り8年です。始まったばかりの新年度も、8年後に向けて、そしてその先の未来へ向けて、着実に前進する一年にしたいと思えます。

ところで8年後の長崎はどんなまちになっているでしょうか。



立山から望む長崎港の様子

目に見える部分で言えば、まず新幹線開通を間近に控え、長崎駅周辺が大きく変わり始めているでしょう。駅舎が今の場所から150メートルほど浦上川の方向に移動し、駅前に広大なスペースができます。ここに、駅前広場をはじめさまざまな施設ができていくことになりま

かもしれません（まだ検討中）。

鉄道は高架になるので、列車は駅の2階に入ります。ことになりま。そのため長崎西洋館裏から長崎駅までの間にある4つの踏み切りがなくなります。

駅周辺だけではありません。松が枝ふ頭は、クルーズ船がもう一隻接岸できるようにと今、計画作りが進んでいます。海の玄関も充実を目指しているのです。

まちなかの方はどうでしょうか？

今年度から本格スタートする「まちづくりプロジェクト」は、新大工から中通り、浜町、新地を通じて東山手・南山手までの界限が持つ、和華・蘭の雰囲気やにぎわいの力を、もっとアップしようという事業群です。館内に唐人屋敷時代を感じさせる門を置いたり、今は暗きよになっている銅座川を見えるようにしてプロムナード化したりといったさまざまな事業に取り組みます。

まちづくりプロジェクト以外に、出島の表門橋架橋や新市庁舎建設も、計画が進んでいます。

これだけ見ても、中心部の「まちの形」が大きく変わる時期であることはお分かりいただけると思います。いまはまだ不確定なことや、これから始まる変化、周辺の変化も考えると、百年に一度と言っている「大変化の時代」だとい

いでしよう。この変化を、財政面をしっかりとコントロールしながら、次の時代の長崎のプラスに結び付けていくことが重要です。

「まちの形」は、このように目に見えて変化していきますが、

目に見えない変化も重要です。たとえば地域の心の絆だったり、子どもたちの心の中だったり、市役所と市民の関係だったりといったものは目に見えませんが、とても大切なものです。信頼や助け合いを礎にするか、不信や無関心が底流になるかで、まちのあり方は大きく変わります。国も、世界も、基本は同じです。

見えないものについての話は、このコーナーでも時折触れてお伝えしたいと思えます。一番大事なことだと思っから



とどんと、迫りくる迫力がすごい



川辺で読書などができます

ながさき スチ 旅行

出かけて見る・知る
まちの
オススメ
スポット

コンクリートが迫りくる
西山ダム
下流公園

西山バイパス出入口の脇に見える西山ダム。明治37年に建設され、貴重な水を私たちに供給し続けている。そのダムの下で、毎年、美しい桜を咲かせる公園へ今回はプチ旅行。

まず出迎えてくれたのは中島川から移設された高麗橋という石橋。その下には、ダムからの水が流れ、コイが泳いでいる。護岸も整備されているので、腰を下ろしてひと息つける。そして、眼前に迫りくるコンクリートの壁。その高さは実に40メートル。こんな眺めを味わえるのもなかなかないのでは…。そして、壁の上へと行ってみた。そこはおしゃれな街路灯が並ぶ歩道になっていて、ダムや市街地を眺めながら渡ることができる。知っているようで知らない景色。オススメです。